

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書（2025年度助成者）

作成日 2025年9月1日

氏名（フリガナ）	鎌野愛羽（カマノマナハ）
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日（月）～8月9日（土）
大学名 学年	順天堂大学 5年

この度は、医学部夏期集中医学英語研修に参加する機会をいただき、心より御礼申し上げます。ご支援をいただいたおかげで、日常の大学生活では得難い学びと出会いを経験することができました。本プログラムを通して、私が得たものは大きく分けて二点にまとめられます。

第一に、アメリカで研修医として働くうえで不可欠な問診とケースプレゼンテーションの方法を、集中的に学ぶことができました。午前中の講義で基本を学び、その後は実際に問診を行い、先生方の前での発表とフィードバックをいただくことを繰り返しました。特に、一対一で直接アドバイスをいただける機会は、日本では得難い非常に貴重な経験でした。当初は、未熟な英語力で発表できるか不安でしたが、先生方が的確で温かいご指導をくださり、「練習すれば誰でも上達する。大切なのは自信を持つこと。」と励ましていただいたことで、躊躇することなく、積極的に取り組むことができました。日ごとに成長を実感でき、初めは途切れ途切れで行っていたケースプレゼンテーションも、最終的には円滑に行えるようになりました。さらに、お世話になった John A. Burns school of Medicine では、医学生が一年次から継続的に PBL（Problem Based Learning）に取り組んでいることを知り、日本とは大きく異なる教育スタイルであると感じました。自大学でも短期間の PBL を経験したことはありましたが、医学以外のテーマであったため、本格的な医学教育における PBL を体験できたのは大きな収穫でした。実際にハワイの学生と先生を交えて行われた PBL は刺激的であり、症例と紐付けて基礎医学や解剖を学ぶことで記憶に残りやすい点が、PBL の大きな魅力であると実感しました。

第二に、多様な人の出会いです。全国の大学から集まった学生は、アメリカでの臨床医を志す人や、日本で国際診療を目指す人など、志の高い仲間ばかりでした。将来について語り合い、授業での学びを共有する中で、多くの刺激を受けるとともに、同じ志を持つ仲間と出会えたことは私にとって大きな財産となりました。さらに、アメリカで活躍されている先生方から、ご経験やマッチングシステムの厳しさ、レジデントの実際の生活、そしてそのやりがいについて具体的なお話を伺うことができました。これまで漠然と「海外で働きたい」と考えていた私にとって、アメリカで働くことの利点と課題の双方を知ることができたことは、将来をより現実的に考える大きな契機となりました。

今回の研修を通じて得られた学びと出会いを大切にし、今後の海外実習や将来医師としての歩みに活かしてまいります。そして、本研修での学びを出発点として、今後も学び続け、自らを高めていきたいと考えております。このような貴重な機会を与えていただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。